



Flash News

三重大学

第74号

目次

- 平成21年度大学改革推進等補助金（周産期医療環境整備事業）に採択
- 平成21年度「大学教育・学生支援推進事業テーマA」に2件採択
- 厚生労働科学費補助金「化学物質リスク研究事業」に採択
- 森口文部科学審議官視察
- 加藤高等局審議官視察
- ロボクラブを学長表彰
- ホーチミン市師範大学と大学間交流協定調印式
- 「教育学部キャンパスクリーン活動」を実施
- 「世界先端農業科学研究フォーラム」を開催
- 「日食観測会」を開催
- 『パールの輝きで、理系女性が三重を元気に』フィールドサイエンスツアーを開催

- 「三重県・伊勢湾岸地域の自然災害と防災・減災シンポジウム」を開催
- 教育学部附属小学校音楽クラブ「NHK全国学校音楽コンクール」出場決定
- 教育学部附属中学校音楽部「NHK全国学校音楽コンクール」出場決定
- 小中高校生のための環境体験学習「風車でかき氷」を開催
- 外部資金獲得者を学長表彰
- 「夏休みものづくり体験セミナー」を開催
- 「平成21年度電気学会産業応用部門大会」を開催
- 「平成21年度第2回科学研究費補助金説明会」を開催
- 「三重大学カレー試食会」を開催

お知らせ&ご報告

- ・開学60周年記念式典
- ・国際交流チームから
- ・学務部から

平成21年度大学改革推進等補助金（周産期医療環境整備事業）に採択



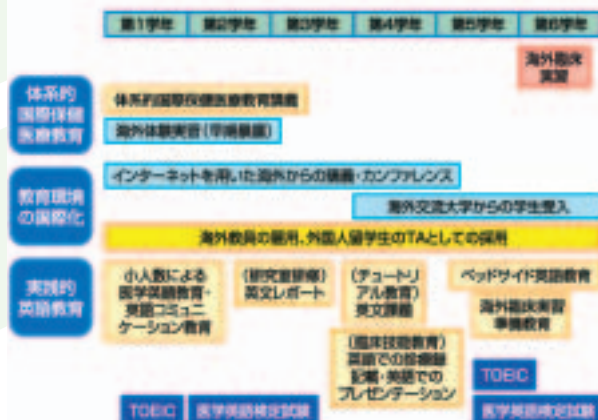
文部科学省が公募した標記事業に本学の「マザーホスピタル構想による周産期医療再生」（課題代表者：佐川典正教授・医学系研究科）が採択されました。この事業は、附属病院が県下の周産期医療の核となり「魅力ある卒前・卒後研修プログラム」の実施とマザーホスピタル機能の強化により、全県的な周産期医療に関わる人材の確保・育成を行います。県下の周産期基幹センター等での卒前実習、専門科未定研修医に向け周産期医療関連科合同研修の提供、女性医師の就労環境整備・女性コーディネーターの配置などを今年度より5年間、毎年4000万円の補助を受けて実施展開し、疲弊する地域の周産期医療の再生と活性化を目指します。

平成21年度「大学教育・学生支援推進事業 テーマA」に2件採択

文部科学省が公募した標記事業に本学の①、②が採択されました。

①「保健医療の国際化に対応する医学教育 —教育環境の国際化と実践的語学教育を目指して—」 (取組担当者：堀 浩樹准教授・医学系研究科)

本事業は、国際保健医療の現場で活躍する人材、国際感覚を持って地域医療に貢献する人材を養成するため、体系的な国際通用性のある医学教育を導入し、既に実施している海外臨床実習との連携による高い教育効果を達成することを目指しています。プログラムでは、入学後早期の海外体験実習、英語コミュニケーション教育、体系的国際保健医療教育、海外からの遠隔授業、外国人教員の採用などを計画しています。



②「隣接学校園との連携を核とした教育モデル—多様な教育課題に対応できる教員養成を目指して—」 (取組担当者：後藤太一郎教授・教育学部)

教育学部では、実践的指導力を涵養する場として本学と隣接する一身田中学校区の学校園との連携を進めてきました。本取組は、この実績を基盤として、隣接するもう一つの学校区である橋北中学校区の学校園との連携へと拡大し、2つの中学校区（2中学校、6小学校、3幼稚園）および教育委員会との連携協力を深化させ、現場体験を核とした教員養成の教育モデルを構築しようとするものです。このプログラムでは、学校における多様な教育課題への支援に参加しながら教員としての資質形成に結びつく体系的で幅広い学びを体験することによって、質の高い教員を養成することを目的としています。

厚生労働科学研究費補助金「化学物質リスク研究事業」に採択

厚生労働省の標記事業に本学の「化学物質の胎内ばく露による情動・認知行動に対する影響の評価方法に関する研究」（代表者：成田正明教授・医学系研究科）が採択されました。この事業は、昨今、社会問題となっている環境中にあるさまざまな化学物質の妊娠中のばく露が、生後の情動や認知行動異常とどのような関係があるかを解明しようとするものです。今年度から3年計画で、本学を拠点に、順天堂大学・青山学院大学・文教大学の協力を得て基礎研究・臨床研究・疫学調査を実施します。

森口文部科学審議官視察

8月20日、文部科学省森口文部科学審議官が本学を訪れ、内田淳正学長らとの懇談の後、学内の研究施設などを視察されました。懇談では、内田学長から本学の概要および現状と今後の課題について説明があり、活発な意見交換が行われました。その後、附属病院ではPET-CTやスキルズラボの緊張性気胸シミュレーションプログラムを視察され、各担当者からそれぞれの施設・設備の説明を受けられました。引き続き、工学研究科では次世代型電池開発の研究を視察されました。



森口 文部科学審議官

加藤高等局審議官視察

8月24日、文部科学省加藤審議官（高等教育局担当）が本学を訪れ、内田淳正学長らとの懇談の後、附属病院を視察されました。懇談では、内田学長から本学の概要および現状と今後の課題について説明があり、野村理事から本学の教育目標「4つの力」を育成する様々な取組の紹介がありました。その後、附属病院では病院再開発や看護師の確保など病院経営上の諸課題や感染対策について意見交換が行われ、スキルズラボの小児救急シミュレーションプログラム等を視察され、看護師長などから医療現場の現状について説明を受けられました。



加藤 高等局審議官

ロボコンクラブを学長表彰



ロボコンクラブ「M³R C (イクキューアルシー)」は、6月7日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された「NHK大学ロボコン2009～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会」に出場。予選3位で決勝トーナメントに進出し、準々決勝で長岡技術科学大学と対戦し勝利、準決勝では、優勝した豊橋技術科学大学と対戦し、わずか1秒遅れで勝利を逃しましたが、ベスト4となり、「アイデア賞」を受賞しました。この栄誉を讃え、7月21日に学長表彰が行われました。

ホーチミン市師範大学と大学間交流協定調印式

7月28日、学長室において、ベトナムのホーチミン市師範大学と標記調印式が行われました。調印式には、本学から内田淳正学長、松岡守理事、江原宏学長補佐、上垣渉教育学部長、秋元ひろと教育学部教授および国際交流センターの花見楨子教授、吉井美知子教授、ホーチミン市師範大学からはヒュイン・タイン・チュウ国際交流担当副学長、レ・ティ・ホン・ガー日本語学科担当教師が出席しました。調印式後は、教育・研究および学生交流などについて意見交換が行われました。



「教育学部キャンパスクリーン活動」を実施



7月15日、標記清掃活動が行われました。教育学部では、7月と11月の年2回、学生や教職員が一緒になって、学部周辺の美化活動を実施しています。清掃活動の後には、家政科の学生が用意してくれたスイカや冷麦、フルーツポンチを食べ、講座や専攻を超えた交流のひと時を楽しみました。今回は、教員採用試験直前ということで、応援団による「教員採用試験合格」壮行の会も兼ねており、例年以上に盛り上がりました。

「世界先端農業科学研究フォーラム」を開催

生物資源学研究科では、7月18日、19日に本学と中国農業科学院の共催による標記フォーラムが開催されました。初日は、世界の先端農業科学研究について農業科学研究者による基調講演が行われ、2日目は農業科学研究の現状および将来展望について研究発表や意見交換が行われました。フォーラムには中国各地の研究機関から50名、本学、(独)農業・食品産業技術総合研究機構、三重県農業研究所等から51名、計101名の参加者が出席し、英語や日本語、中国語による活発な議論が交わされました。今回のフォーラムを契機に、本学と中国農業科学研究機関との学術交流が更に発展することが期待されます。



「日食観測会」を開催

7月22日、講堂（三翠ホール）前において、教育学部天文学教室主催の日食の観測会が行われました。太陽が8割以上欠ける日食は、県内では51年ぶりで、あいにくの曇り空でしたが、時々、雲間から欠けた太陽が現れると、一斉に歓声があがるなど、珍しい天体現象を子どもから年配の方まで多くの参加者が楽しみました。なお、次回の日食は2010年1月15日、県内では2割弱しか欠けませんが、欠けながら沈んでいく珍しい太陽を見ることができるかもしれません。

**『パールの輝きで、理系女性が三重を元気に』フィールドサイエンスツアーを開催**

科学技術振興調整費による女性研究者支援モデル育成事業の一環として、生物資源学研究科附属教育研究施設で県内の女子高生を対象に標記体験学習ツアーを開催しました。7月27日は演習林で、紀伊半島でも貴重な天然林の見学や量水観測試験地の見学、28日は練習船「勢水丸」で、底生海洋生物に関する調査とスナメリの目視調査などを行いました。さらに8月29日は農場で、稲刈り・脱穀・精米体験や梨の糖度測定を行いました。参加した38名は、普段は体験できない研究の一端に触れることで、フィールドサイエンスへの理解を深めることができました。

「三重県・伊勢湾岸地域の自然災害と防災・減災シンポジウム」を開催

7月31日、生物資源学研究科と自然災害対策室の共催で、生物資源学研究科COE研究の成果発表会を兼ねて標記シンポジウムが開催されました。畑中重光副学長と田中晶善生物資源学研究科長の挨拶の後、(独)防災科学技術研究所の堀 貞喜研究部長による「東南海・南海地震メカニズムについて」と井口 隆総括主任研究官による「過去の発生事例から地すべり災害への対応を学ぶ」と題した招待講演がありました。その後、本学の研究者が東南海・南海地震や地すべり、豪雨災害などの自然災害について講演を行いました。参加した約100名は、多様な自然災害の話題に熱心に聴き入っていました。

教育学部附属小学校音楽クラブ「NHK全国学校音楽コンクール」出場決定

8月7日、三重県文化会館で開催された標記コンクール三重県大会において、金賞を受賞し、9月5日、県代表として東海北陸ブロックコンクールに出場し、3年連続金賞を受賞しました。10月10日にNHKホールで行われる全国コンクールでは、自分に自信を持ち、一人ひとりが100%の力を発揮できることを目指します。今年度は4～6年生の27人で、“もっと”を合言葉に、楽しく充実した活動をしています。たくさんの先輩方、いつも支えてくれる家族、どんな時も温かい心でつながっている仲間感謝し、団結して歌声を響かせます。

**教育学部附属中学校音楽部「NHK全国学校音楽コンクール」出場決定**

8月7日、三重県文化会館で開催された標記コンクール三重県大会において、金賞を受賞し、7年連続県代表として9月6日、愛知県稲沢市民会館で開催された東海北陸ブロックコンクールに出場しました。日々の練習を重ねた結果、金賞を受賞し、全国コンクールへの切符を手に入れました。三重県の中学校から全国コンクールに出場するのは、昭和28年以来、56年ぶりになります。一致団結で全国コンクールに臨みますので、応援よろしくをお願いします。

**小中高校生のための環境体験学習「風車でかき氷」を開催**

8月7日、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーにおいて標記活動（実施代表者：前田 太佳夫教授・工学研究科）が行われました。この活動は、1999年度日本学術振興会（ふれあいサイエンスプログラム）に採択されたことから始まり、以後、地元の小中高校や進学塾あるいは自治体と連携して、継続的に行っている活動です。本年度は、地域貢献支援活動の支援を受け、「三重私塾の会」と共同で実施されました。参加した39名の子供たちは、風力発電の講義の後、大学院生に指導を受けながら小型風車の組立実習を行い、最後に風車で得た電力でかき氷を作って楽しみました。



外部資金獲得者を学長表彰

8月26日、本学の運営・発展に多大の貢献をした教員等に対する学長表彰が行われ、報奨金が授与されました。これは、本学の研究者が受け入れた外部資金により研究の活性化を図るとともに、間接経費の受入により本学の運営・発展に貢献していただいたことに対するインセンティブの一環として実施するものです。当日は、内田淳正学長から11名の教員に対して表彰状が授与され、今後も外部資金獲得の更なる増加を目指すための模範となっていくと述べられました。



「夏休みものづくり体験セミナー」を開催



8月27日、工学部・工学研究科技術部主催の標記セミナーを開催しました。セミナーでは「オリジナルプレートを作って機械加工を体験しよう!」、「液晶って何だろう?」、「材料試験を体験しよう!」をテーマに、液晶キーホルダーの作成や金属の引張試験を行いました。津市、鈴鹿市、四日市市、伊勢市から中学生が参加し、ものづくりの楽しさを実感していました。今後も地域貢献活動の一環として、このようなセミナーを継続的に開催する予定です。

「平成21年度電気学会産業応用部門大会」を開催

8月31日～9月2日、講堂と工学部において標記大会が行われ1000人以上の企業の技術者や大学研究者が参加しました。大会では、電気電子工学に関する熱心な研究発表や討論はもとより、一般の方も参加できる神宮司廳およびシャープ(株)による特別講演とメカトロ・ロボット講演会や研究展示が行われました。屋外では、大学、企業から6台の電気自動車展览展示され、試乗会が行われ、大好評でした。またこれに先立ち、8月29日に講堂で子ども科学技術教室が行われ、近隣の小学生111人が乾電池や太陽電池で駆動するミニカーの制作を楽しみました。



「平成21年度第2回科学研究費補助金説明会」を開催



渡邊 淳平 研究事業部長

9月8日、講堂(小ホール)において、教職員・学生、県内の高等教育機関関係者らを対象に今年度第2回目となる標記説明会を開催しました。日本学術振興会の渡邊淳平研究事業部長による「科学研究費補助金獲得に向けて」と題した講演が行われ、約150名の参加者は熱心に耳を傾けていました。平成22年度科研費の申請とその採択に向けて、より一層の認識を深める良い機会となりました。

「三重大学カレー試食会」を開催

9月24日、第一食堂で「三重大学カレー」の試食会が行われ、試食した学生や教職員からは、「とてもおいしい」と満足の声があがりました。カレーは食品企業に就職したOBらが中心となり、学生時代に食べた練習船「勢水丸」のカレーをベースに商品化されました。10月1日には販売開始にあたり、翠陵会館前で試食と販売を行います。将来は、「三重大学カレー」が本学の名物となり全国発売されることを夢見ています。



お知らせ&ご報告

開学60周年記念式典

○開催日：10月9日(金)14:40～19:30 ○開催場所：講堂(三翠ホール)

国際交流チームから

10月19日～22日、「3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム2009」を本学で開催します。

学務部から

今年度も出前授業、大学訪問、オープンキャンパスなど各学部での取り組みに加えて、サマーセミナー、東紀州講座、高校生向け公開授業、スーパーサイエンス・ハイスクール(SSH)、サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)など全学的に取り組んでいます。詳しくは、<http://www.mie-u.ac.jp/koudai/>をご覧ください。

投稿のお願い

各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。登 勉(nobori@chin.medic.mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(<http://www.mie-u.ac.jp>)ご覧いただけます。》編集責任者/理事・副学長 後藤正和

